

宮崎大学医学部だより

フロンティア科学総合研究センター



かとうじょうじ
加藤 丈司 センター長

宮崎大学の共同教育研究施設・フロンティア科学総合研究センターをご紹介します。2003年、宮崎医科大学と旧宮崎大学の統合の際に、それぞれの実験支援施設・部門、および宮崎医科大学

の講座の一部が統合・再編成され（旧）フロンティア科学実験総合センターが誕生しました。2020年1月に、大学機能強化を目的に、旧センターが改組再構築され、新たなフロンティア科学総合研究センター（以下、センター）となりました。施設名も、「科学実験総合」から「科学総合研究」へ、名称の漢字部分が新しくなりました。現在、センター専任教職員として、教授2名、准教授4名、テニュアトラック准教授1名、助教2名、技術系職員9名が所属しています。後述の特別教員と客員教員、特任教員、客員研究員、事務・技能補佐員、大学院生なども含めて、総勢40数名が、教育研究業務に従事しています。このように、同センターは、比較的大きな学内組織となっており、研究国際部研究推進課総務係が担当事務です。

新センターは、生理活性物質研究部門、感染症免疫研究部門、実験支援部門、プロジェクト研究部門の4部門で構成されます。2020年1月の改組では、旧センターの4部門が3部門へ整理され、プロジェクト研究部門が新設されました。本学に特徴的かつ先端的な生理活性物質や感染症などの生命科学研究を推進しつつ、学内外の教育研究活動の幅広い支援を行っています。実験支援部門は、生物資源分野、遺伝資源分野、分子形態・機能解析分野、RI分野の4分

野で構成され、それぞれの分野に関連した独自の研究も進めています。また、外部資金に基づく研究チームや大型プロジェクトなどが、プロジェクト研究部門に設置可能です。

プロジェクト研究部門では、今年度、新たなプロジェクトが設置され、特別および客員教員が就任しましたのでご紹介します。昨年度末に、医学部を定年退職しました森下、北村、中里の各教授が、センター特別教授に就任し、各々の研究プロジェクトが設置されました。大学発ベンチャー企業「MabGenesis株式会社」と「ひむかAMファーマ株式会社」、およびAMEDの外部資金を基盤としたプロジェクトです。また、日機装株式会社の浅野拓司氏に、客員教授にご就任いただきました。浅野氏は、基礎研究からマーケティングまで学際的事業展開の経験をお持ちです。プロジェクト研究部門の研究活動により、幅広い分野にてトランスレーショナルリサーチや産学官連携が展開されることが期待されます。

木花と清武の両キャンパスにまたがるセンターは、学部や研究科の枠を超えた学内組織として、生命科学研究を中心とした宮崎大学の重点領域研究推進の原動力となるべく、教育研究活動とその支援を行っています。宮崎医科大学・宮崎大学医学部の伝統的研究を継承しつつ、新たな展開も求めて質の高い情報発信に努めてまいりますので、宮崎県医師会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当センターの詳細については、ホームページ（以下のQRコードまたはURL）をご覧ください。



<http://www.miyazaki-u.ac.jp/frontier/index.html>